

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2992000022		
法人名	有限会社永真会		
事業所名	グループホーム磯城		
所在地	奈良県磯城郡田原本町阪手496番地の1		
自己評価作成日	平成22年8月13日	評価結果市町村受理日	平成22年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様全員でいろいろな所に外出し、買い物にも出かける

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成22年9月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、比較的交通の至便な地に、既存建物を全面改装し住宅地の中に開所されています。ホーム内は清掃が行き届き清潔感があり、室温や採光への工夫がなされています。また、看護師を配置され、医療と健康管理に特に配慮されています。加えて、積極的な外出機会の確保や地域社会との関わりを大切に運営されています。入居者は、持っている力を活かしながら、本人のペース・リズムで穏やかに生活されています。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で共に生活している住民として地域との関わる機会を多くしながら認知症への理解を深めてもらうよう交流を深めていく	尊厳ある自立した生活の確保と地域との連携重視の理念があり、定期的に関われる会議において、確認し合い実践に活かす取り組み等がなされています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加したり、掃除などの行事に参加している	事業開始から1年余であるが、ホームの孤立化を防ぐ為に自治会への加入と共に清掃活動や地域行事等に参加され、地域との交流に努められています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高校との交流やお店など利用しながら認知症の理解を深めてもらっている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8/5に行い状況の報告等を行っている(別紙参照)ファイルに閉じている	運営推進会議の設置目的・意義を正しく理解され、行政や自治会代表等のメンバーによる会議が設置され、サービスの質の確保・向上への説明・意見交換等がなされています。	今後も会議を定期的に関催され、一層のサービスの向上に活かされることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状の人数把握、家族との連携、入所者様の心身状態など報告している	定期的に窓口を訪問され、入居者の状況報告や運営上の課題等について相談・連絡し連携強化に努められています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない様夜間の巡回を増やし、様子把握を頻繁におこなっている	身体拘束による弊害を正しく認識され、マニュアルの作成と職員会議で確認し合う等ケアの中で実践されています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めており日々の引きつぎにより職員の意識を常に統一している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や書類に目を通して学びながら現状の入居者様が利用する際スムーズに活用出来る様知識を習得している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず立ち合っただき、不安や疑問があれば電話での対応も行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回支払時に必ず施設への要望を家族からお聞きし要望をすぐに反映できるよう、職員で話し合い実行している	家族の訪問時や運営推進会議で意見・要望等を聞き出し、聴取された事項は記録され、職員で検討し運営に反映されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議や研修をおこない意見を出し合ってもらい運営につなげていっている	毎月の職員会議等で意見・提案する取り組みがなされ、必要な事項等は運営に反映されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	専務、所長が常に勤務状態を把握しながら各自が向上心を持って働けるよう相談にも応じている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	法人内の研修以外に、県の主催している研修にも参加し他の職員にも報告しスキルアップにつなげていっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との職員とお互いの施設における相談、活動内容などを話し良い面を教えて頂き支援にあたっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様全員の行動、言動を見逃すことなくその都度素早く対処する事によって信頼関係が生まれてくる		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時や電話でお話する時いろんな意見をうかがい必ず実行する事で信頼して頂けその都度様子もお話する		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際に本人、家族の意向、必要な支援をまず話し合いサービスを実施を行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の現在の状況が違う為協力して頂ける方には協力して頂きお礼も言います		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との家族関係や入居者様の考え方によって必要な方には心の平安を持って頂く為にも行っている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の考えておられることや思いを必ず伝え支援にあたっている	安定した生活の継続・維持には、馴染み関係の確保も極めて大切との思いがあり、友人との面会や馴染みの理美容院・買い物等で、維持に努められています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が一つの家族の一員になれる様に色々な問題を解決していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話だけの対応になりますが関係維持に努めて相談等傾聴しています		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人、思いや考え方が違う為居室にて、1対1で話し合い少しでも歩みよりたい	一人ひとりの暮らしの中の言動等の観察・気づきを詳細に記録され、ケアに活かす取り組みがなされています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の事は今までの資料を参考にしながら同居していた身近な家族に教えて頂いている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムが違う為個々に応じた対応を細やかにしている、変化があればその都度話し合いをもっている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が意欲をもって課題を達成できるように支援しながら家族の意向も反映させるように作成している	介護計画作成とモニタリングを通じて、計画の見直しの必要性を正しく理解され、関係者が相談し、入居者の現状に即した介護計画を作成されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当職員間ではうまく意思疎通がとれており、情報交換も密に行い、実践している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員全員の意見を取り入れ、その都度一番良いと思われる対処方法をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報源として、地域の図書館へ行き知識を得たり近くのスーパーで買い物という一連の流れを発揮して頂いている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続してかかりつけ医で受診されている方や嘱託医に往診して頂いている方がおられます、嘱託医に関してはいつでも連絡がとれる様にして頂いている	かかりつけ医は、契約時に相談され本人の希望を優先されています。なお、受診は家族の協力も得ながら適切に対応されています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の心身の状態を相談、報告をし指示をあおいでいる		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に容態を伺い、退院後の参考にしたりその後の状態の変化について相談できるよう担当医とも密に連絡をとれる様にしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて書類作成し家族の同意を得たうえでどこまでの支援を提供するか話し合い地域の病院把握と嘱託医へ情報共有している	終末期への対応指針が作成されており、契約時に説明されると共に状態に変化が見られる時には、随時関係者が相談され、適切な対応が図られています。なお、職員にも十分理解・浸透が図られています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い訓練も行っているマニュアルを参考にしながら実践している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の避難訓練を行い、グループホーム独自でも行っている会議で話し合い、地域の方々にも協力を仰ぐ	定期的に消火・避難訓練を消防署の指導の下に実施されており、また、地域住民への協力要請がなされています。なお、震災に備え最小必要物品の備蓄もなされています。	火災発生時には、入居者を安全・迅速に屋外へ誘導する事が求められます。この為には周辺住民の協力は不可欠でありますので、一層の働き掛けを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人に対する言葉かけを基本とし人格を尊重しながら日々対応している	人格の尊重を念頭に、語調や応接姿勢等に配慮して、一人ひとりに合わせた対応がなされています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自が何が好みなのか把握し出来るだけ自分で決めてもらえる様に働きかけています		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体に良い事は出来るだけ皆様に参加して頂きその後は各自ゆっくりと1日過ごして頂いている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時洗顔、整髪を行い各自自分の着る服を選んで頂いています、外出時は女性の方は軽く化粧をされる方もいらっしゃいます		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は職員と一緒にしています(テーブル拭き、配膳、食器拭き、和えものなど和えてもらったり)	調理の準備や食事の盛り付け・配膳等に協働され、楽しい食事環境への工夫がなされています。	入居者の食事摂取を優先との思いから、職員と一緒に摂られていませんが、同じものを一緒に摂る意義への配慮を期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の栄養状態を把握しバランスのとれた食事をして頂いています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所にて歯磨きをして頂いています、夜間は義歯を預かり入れ歯洗浄しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し各自に合わせた声かけをして失敗を減らす様支援しています	排泄パターンの掌握・記録と行動観察を基に、トイレ誘導による自立排泄への支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂取して頂き歩行練習や散歩をして頂き軽く身体を動かして頂いています		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望を尊重するようにしています 事故のない様に見守り、支援を行っています	基本的な入浴日・入浴時間帯の設定がありますが、本人の希望等を優先した支援が図られています。また、夜間への対応も整えられています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自希望時ゆっくりと休んで頂きます就寝時間は9時になっていますが各自のペースで休んで頂いています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬内容の把握に日々努力しています 服薬時、服薬後の様子も確認しています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に応じて行っています食事のお手伝い、新聞を読んだり、クロスワードをしたり、気の合う人同士のおしゃべり、外出、買い物など		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の面会の際に家族と共に外出し本人と楽しく過ごしてもらいながら家族が普段連れて行けない場所にも職員の支援で共に出かけられる	ストレス発散や五感刺激等、外出により受ける効果を理解され、広い敷地内や周辺散歩の日常化や外食・買い物等の機会の確保に努められています。また、家族の協力を得て、本人が希望する所に出掛ける機会を作られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーに買い物に出かけ、支払時には職員が支援したり、見守りを行っています		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきの出したい時に書いて頂く、年賀状や暑中見舞いは必ず書いて頂いています		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を第一に見た目もきれいにしています、季節に応じて置物を変えたりしています	共用空間は清掃が行き届き清潔感があります。また、室温・採光や装飾に工夫され、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士同じテーブルに座って頂き会話を楽しんだり、ストレスのかからない様に自由にして頂いています		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や家族の方と相談をし自分の気に入ったお部屋にされています、仏壇やテレビ、椅子などおいておられる方もあります	一人ひとりの好みの品々が持ち込まれ、安心して過ごせる居室となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元の安全を計り明るい生活空間をとり、居室の掃除など簡単な作業は行っています		